

# 四国地方出土の和同開珎

柴田 圭子

## I はじめに

四国地方における古代銭貨の出土は大変限られている。しかし、少数のみの出土に留まるという事象にはそれ相当の意味があろうし、またそのような地域の中にありながら和同開珎が出土する遺跡、遺構に関して考察することは、地方における古代銭貨の浸透を探る上で重要であろう。

古代銭貨は、火葬墓、土坑、祭祀、中世の一括大量出土銭から出土している。それらの多くは、過去の不時発見や伝承として伝わったものであり、和同開珎のみに注視すると、一層その傾向が強まる。その結果当地域においては古代銭貨、あるいは和同開珎を対象とした研究は多くはなく、香川県内における古代銭貨の出土を取りまとめたもの（大山 1999）や、愛媛県内の和同開珎を伴う火葬墓出土の事例を紹介したもの（正岡 1991・1993・1996、正岡・十亀 1996）、四国の古代銭貨を集成し傾向をまとめたもの（山内 2000）が挙げられる。これらの研究以降、新出資料は徳島県の一例のみであり、今回の報告の多くはそれらの成果に依拠していることをあらかじめ断っておく。

なお、これ以降、香川県を讃岐、愛媛県を伊予、徳島県を阿波、高知県を土佐と旧国名で呼称する。

## II 出土分布

出土した遺跡は、讃岐 5 遺跡、伊予 4 遺跡、阿波 1 遺跡、土佐 1 遺跡である。ただし、今回追加した土佐の八王子古墳群山間古墳の例は、遺物が失われているため和同開珎である確認ができない。出土したという記録があるため一覧には掲載したが、本論では分析対象とすることは見送りたい。

分布の特徴としては、特定の地域に集中するのではなく比較的分散していること、瀬戸内側の讃岐・伊予に多く、阿波・土佐には少ないこと、讃岐の島嶼部に散見できることが挙げられる。

## III 出土地と出土遺構

出土した遺構が明確な例は、火葬墓、土坑がある。また、遺構出土ではないが祭祀と考えられる例がある。それらについても発掘調査による出土は 2 例のみであり、銭貨の出土状況等不明な点が多い。そのため、近隣の遺跡を含めた出土地の歴史環境も合わせて紹介し、和同開珎のもたらされた地域の特徴を導き、出土の背景を考察する手掛かりとしたい。対象は古代の例と考えられる出土地である。なお、各遺跡の主要文献は一覧参照とし、それ以外のものを本文中に記載した。

## 〔讃岐〕

大浦浜遺跡（図1・2） 坂出市北約10kmの備讃瀬戸に浮かぶ櫃石島の南東部の大浦浜に所在する。櫃石島は、周囲5.4km、面積0.85km<sup>2</sup>の小島であり、古代には備前国児島郡に所属していたと推定されている。櫃石島を含む備讃瀬戸一帯は弥生時代以降製塩遺跡が多く分布している地域で、また古墳時代には小型手づくね土器や滑石製模造品、玉類などを出土する祭祀遺跡が点在しており、古代においても大飛島に代表される祭祀遺跡、あるいは祭祀関係の遺物を出土する遺跡の存在が知られる。

大浦浜は延長約400m奥行き250mの浜で縄文時代から中世の複合遺跡である。遺跡内の南北両端に分かれて9点の古代銭貨が出土した。和同開珎は北側から出土しており、周辺からは神功開寶・隆平永寶各1点や、奈良二彩蓋、緑釉鉢または盤、金銅製座金、小札が出土しており祭祀関連の遺物群ととらえられている。出土状況は大山真充氏の論に詳しいので以下それを参照の上紹介する（大山1982）。

出土地（A地点）は西から延びる低丘陵の裾部で、汀線から65m内陸部である。古墳時代前期包含層の上部から奈良二彩小壺蓋、和同開珎、神功開寶が50cmの範囲にまとまって出土した。同時代の他の遺物は出土していない。南4mの地点では古代末の包含層から隆平永寶が出土、さらに5m南から金銅製小札が出土した。A地点の南300mのB地点では古墳時代後期の包含層から三彩小壺の身の破片が3点出土し、さらに南のC地点では7～10世紀の製塩土器による包含層があり、その上層やピット内から他の古代銭貨や銅製品が出土した。時期的にはA地点からC地点への変遷が考えられ、出土遺物の組み合わせから、三彩や二彩のあるA・B地点と、C地点では別構造の祭祀が行われたのではないかと推定されている。

西福寺遺跡（図3） 坂出市府中町西福寺は、綾川中流域国分台丘陵と城山丘陵に挟まれた狭い平野に面し、城山裾に立地する。隣接地には白鳳期まで遡る可能性のある醍醐寺跡があり、3km上流域、南海道と綾川が交差する付近には讃岐国府と開法寺跡があり、東には国分寺が存在している。古代讃岐国の中枢部に近い。近隣とは言えないが同じ城山南麓からは額古墓、またそれと谷を隔てた横山西裾からは大原古墓が発見されている。

西福寺遺跡は、1930～32年頃に畑の開墾によって木炭・火葬骨・銭貨が入った須恵器壺が出土し、発見された。銭貨は和同開珎・神功開寶・萬年通寶であったとされる。1938年に松浦正一氏によって記録が作成され、それには出土貨幣は30文以上と記載されており、ほかに松浦氏により拓本が残されている（松浦正文庫7091番）。和同開珎1点、萬年通寶1点、神功開寶2点が現存している。

## 〔伊予〕

柏木古墓（図4・5） 西条市小松町（旧周桑郡小松町）新屋敷は、道前平野を形成する主要河川である中山川が大きく蛇行して河口に至る直前の右岸に立地する。南には四国山地丘陵が迫る。西約2kmには飛鳥～白鳳期創建の法安寺が所在するほか、その周辺では近年松ノ丁遺跡、大関遺跡、松ノ元遺跡、大久保遺跡が調査され、全ての遺跡において奈良時代から平安時代の遺構が検出された。特に松ノ元遺跡では奈良時代の官道遺構（(財)愛媛県埋蔵文化財調査センタ

一2001)、また大久保遺跡、大開遺跡では奈良時代から平安時代前期にかけての官衙関連遺構が検出されている((財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2004・2005)。柏木古墓周辺は西進してきた南海道が今治平野に向けて角度を変え北上する付近に当たる。近辺には舟山古墳群が所在し、同所からは7世紀後半～8世紀初頭の統一新羅系の有蓋椀が出土し、古墓とも伝えられる(正岡1995)。南側四国山地の裾部には、銀装方頭大刀を出土した終末期古墳とされる茨谷1号墳や8世紀の須恵器窯である尾土居窯跡((財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1994)が存在している。

相木古墓は、1920年開墾作業中に発見された。地下1mに炭が多数認められ、土器2点と和同開珎が出土した。和同開珎は土器の付近からの出土である。全部で12点出土したとされている。土器は土師器甕で1点現存し、口縁部が「く」字形を呈する小型の甕である。8世紀に比定できるが、銭貨が和同開珎のみであることから8世紀前半に位置づけられている。和同開珎は7点が現存している。

朝倉高大寺(図6) 今治市朝倉(旧越智郡朝倉村)は、高縄半島先端に広がる今治平野南部を形成する頓田川上流部に位置し、山地に三方を囲まれた幅1～2kmの開析谷を頓田川の谷底平野が覆っている。出土地の南東500mには白鳳期創建、奈良時代まで存続したとされる本堂寺廃寺が存在する。また北1.5kmに所在する経田遺跡が近年調査され、奈良時代の掘立柱建物が20棟以上検出され、赤色塗彩土師器、瓦、埴などの出土が報告されている((財)愛媛県埋蔵文化財調査センター2007・2008)。

蔵骨器出土地は低丘陵上であり、昭和32(1957)年に地表下30cm程のところから須恵器の壺とともに発見された。銭貨は壺中からの出土と伝えられる。壺は2点出土したとみられ、双方であるかどうかは判然としないが炭が詰まった状況であったと言う。出土銭貨は和同開珎14点と萬年通寶1点である。付近からは他に昭和38(1963)年にも和同開珎3点の出土が伝えられ、また、朝倉美術古墳館には出土地不明の和同開珎が保管されている(正岡1996)。さらに銭貨は伴わない例であるが2ヶ所から3点の蔵骨器が出土しており((財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1986)、高大寺古墓出土地周辺には火葬墓が集中していたとみられる。

今治国分(図7) 今治市国分は今治平野南東部、唐子台丘陵南西側の裾部に当たる。伊予国府は今治平野に存在したとされており、当地は南海道が今治平野へと至る入り口となる。伊予国分寺跡が存在し、また近隣には伊予国分尼寺推定地や、鳥越池窯跡が分布する。

出土の記載は、江戸末期(1866年)出版の半井悟庵『愛媛面影』にある。それによると、七蔵という人が国分山城址麓において「和同開珎の古銭百ばかり」を掘り出した、とある。出土地の詳細な位置は不明であるが、伝承によると「脇屋卿の墓より一町ばかり東の谷」と記載されており、国分寺所在地と近接した場所からの出土とみられる。

出土は「古銭百ばかり」と伝えられるのみであり、壺等の容器に入っていたのかなど知る由もないが、火葬墓の可能性が指摘されている。和同開珎1点が国分寺に伝えられている。

#### 〔阿波〕

中庄東遺跡(図8～10) 遺跡の所在する三好郡東みよし市(旧三加茂町)中庄は吉野川中流域南岸に位置し、河口部からは約62km上流の内陸部である。かねてから条里地割りが明瞭に残

る地域として知られ、古代～近世を通じて地割りが継続されたことが文献で確認できる。遺跡の周辺は奈良時代には美馬郡三津郷（貞観2（860）年には三好郡が分割）に含まれ、隣接地には白鳳期から平安時代にかけての集落と墓域を検出した末石遺跡や奈良時代創建の合蔵廃寺（徳島県教育委員会ほか 2006）が存在している。また、当遺跡の調査成果により郡衙の存在が予測されるに至っている。寛治4（1090）年に三津郷において仏像を鑄造して東大寺に献上した記録があるほか、鑄銅に関わる遺跡として長善寺裏山鑄造遺跡があり、銅採掘地の存在の可能性も指摘されている。

中庄東遺跡は、古代～中世を中心とする複合遺跡で、古代の遺構は7～9世紀にかけて形成されている。和同開珎が出土したのは8世紀後葉～9世紀の遺構面で、当該期の遺跡中枢部に該当する7C区北部である。大型の掘立柱建物が配置され、そのうちSA2017からは石製印未成品が出土している。中央には不整楕円を呈する大型遺構であるSX2009があり、これは本来「幅の広い溝、池、ないし窪地状の自然地形」であったと推定されている。和同開珎を出土した土坑SK2076は、このSX2009を切って構築されている。また、この遺構の南側を中心に鉄滓や鞆羽口を出土する土坑やピットが散在している。周辺にも掘立柱建物は存在し、それらを取り巻くように土坑墓群が形成されている。

SK2076は、平面は楕円形で、断面は逆台形、底面はほぼ平坦である。規模は長軸83cm、短軸56cm、深さ21cmを測る。中央の1・2層は柱抜き取り痕に相当する可能性がある。遺物の多くは掘り方埋土から出土している。和同開珎は北側の遺構肩から10cm程度下がった地点で出土した。本遺構からはほかに土師器皿、須恵器皿が出土したが、土師器・須恵器ともに完形品ではなく、故意に入れられ原位置を保っている状況ではない。いずれの遺物も本遺構が切っているSX2009の遺物が混入した可能性が指摘されている。SX2009では第1層の炭化物を多量に含む層から、多量の遺物が出土し、青銅製丸鞆・青銅製環座金具が含まれる。可能性としては和同開珎もこれらとともに廃棄されていたことが指摘できる。

SX2009の時期は8世紀後葉とされている。

#### IV 出土傾向のまとめ

四国における和同開珎の出土例は非常に少ない。そのため、いくつかの視点に沿って出土例を位置づけまとめとしたい。

はじめに2000年までの出土例をまとめたもの（山内2000）を参考に、他の古代銭貨との出土傾向を比較すると、遺跡数では、讃岐国と伊予国において和同開珎を出土する遺跡が最も多く、阿波と土佐ではその他の銭貨を出土する遺跡のほうが多い。しかし、和同開珎の出土に限られる遺跡は伊予国柏木古墓と伝承ではあるが国分出土銭、阿波國中庄東遺跡のみであり、ほかは他の銭貨と共伴している。共伴するのは神功開寶（大浦浜遺跡）、神功開寶・萬年通寶（西福寺遺跡）、萬年通寶（朝倉高大寺）のみであり、これらとともに墓への副葬や祭祀といった経済外使用に供されている。

次に出土した遺跡に関しては、集落遺跡からは皆無であり、官衙（あるいは官人）と関連する

遺跡あるいは祭祀、火葬墓という特殊な遺跡に限られる。しかし、官衙と関連する遺跡に関しては、奈良時代の調査例は増加しつつあるのだが、和同開珎の出土は認められず、今回報告した中庄東遺跡が現時点で唯一の例である。このように出土が見られない傾向は、当地域における和同開珎の普及が非常に限定的であったことを示している。中庄東遺跡に関しては製塩土器や赤色塗彩土師器の出土が地域内で傑出していること、遺物では銅製丸鞆や石製印未成品の出土、製鉄関連遺物の分布や土坑墓群の形成など特殊な状況がみられ、慎重に評価されなければならない遺跡であり、和同開珎の出土もその過程の中で意義付けなければならない。

祭祀では大浦浜遺跡を紹介したが、奈良～平安時代にかけてみられる備讃瀬戸島嶼部の祭祀遺跡に関しては、国家的祭祀としての位置づけが与えられている大飛島に加えて、宇治島、大浦浜遺跡は、奈良三彩や二彩の出土などその遺物の特殊性から祭祀の主体者は畿内の中央勢力であるとされ（乗岡 2002）、大浦浜遺跡出土の和同開珎は、祭祀に使用されるため中央からもたらされたものとの位置づけられる。また、詳細な情報がなく個別の遺跡紹介では取り上げなかった荒神島での和同開珎の出土も祭祀遺跡であった可能性が指摘できる。

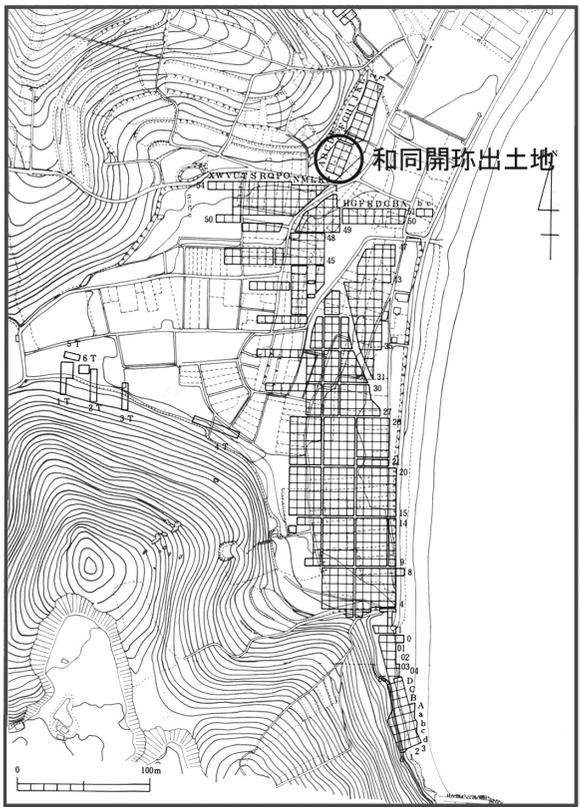
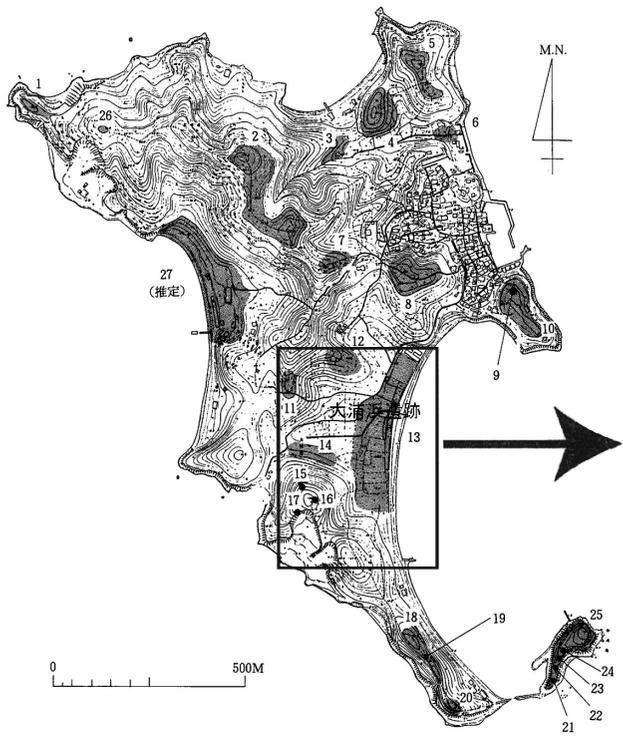
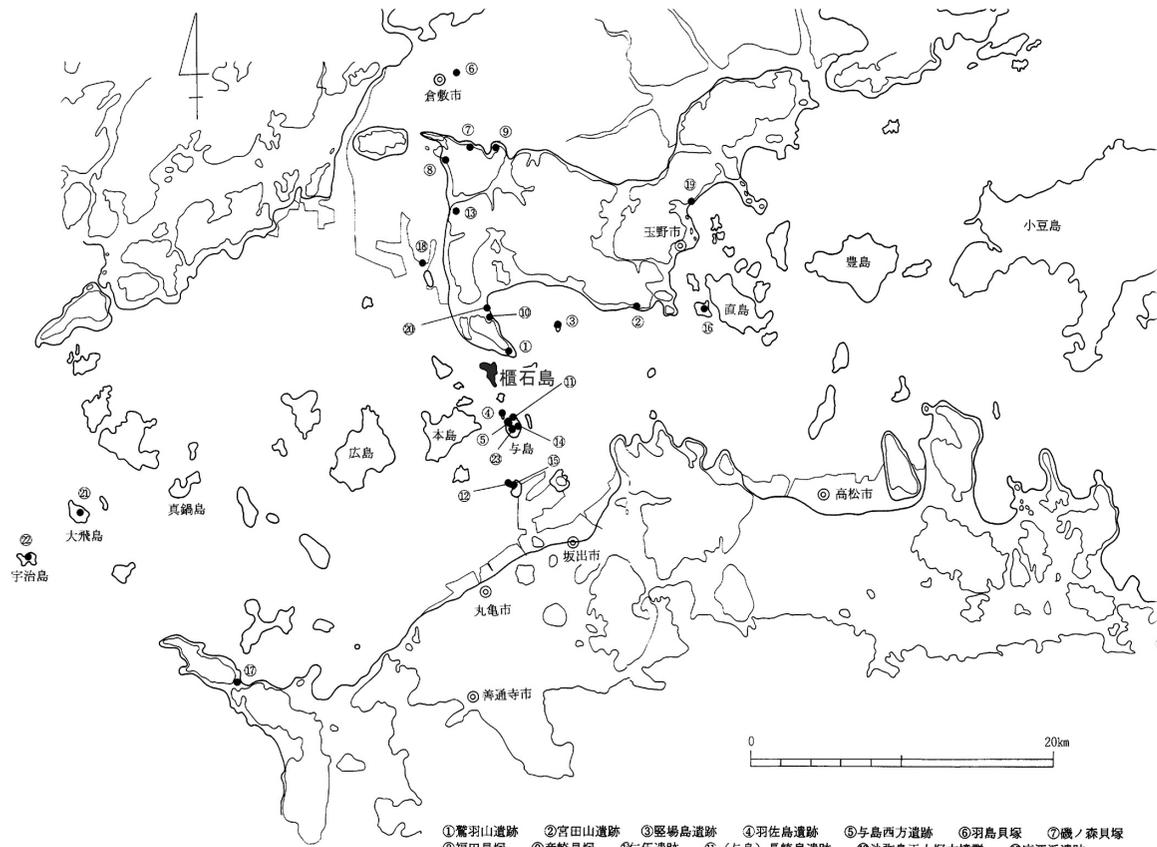
火葬墓に関しては、讃岐 1 遺跡、伊予 2 遺跡で出土がみられた。いずれも周辺の状態を確認すると、白鳳期から奈良時代の寺院跡や遺跡が分布しており、地方有力豪族の拠点といえる地域においての出土と判断される。これは造墓の背景であると同時に、そのような地域に和同開珎が非常に限定的にもたらされていることを裏付ける。ただし、これらは現時点では火葬墓に限定した出土であり、本来存在したものなのか、葬送での使用目的で持ち込まれたのかは判断できない。火葬墓における銭貨の出土状況については、讃岐では火葬墓の発見例は 35 例が挙げられ、そのうち銭貨が伴っていたのは 2 例のみである（佐藤 1993）。伊予においては古代火葬墓の発見自体が大変少なく検討できる段階にはないが、朝倉高大寺と周辺の例から、近接した火葬墓においても和同開珎や他の銭貨が伴うとは限らないことは確認できる。また、火葬墓に伴う銭貨の出土位置には蔵骨器内と蔵骨器外が確認でき、それに関しては火葬における葬送儀礼の各段階で使用された固有の意義のあるものとの指摘があるが（小林 2004）、当地域の数少ない出土例の中でも葬送儀礼における使用の別があったものと推察される。

以上、四国地方の和同開珎について傾向を分析した。はじめに述べたとおり出土例は非常に少ない。現在までの出土例を見る限り、集落や官衙関連施設から出土しないという傾向があり、当地域における和同開珎の普及が非常に個別的または限定的であったことを反映していると思われる。ただし、国府や国衙、郡衙あるいは寺院に関しては十分に調査が行われていない現状があり、それらの調査が進展すれば状況が変化する可能性も指摘しておきたい。

各県の出土情報につきましては、香川県を片桐孝浩氏、徳島県を藤川智之氏、高知県を池澤俊幸氏にご協力をいただいた。末尾となるが記して感謝したい。

〔参考文献〕（各銭貨出土遺跡の主要文献は一覧に記載）

- 大山真充 1982 「香川・大浦浜遺跡の国家的祭祀について」  
『同志社大学考古学シリーズⅠ 考古学と古代史』森浩一編
- 大山真充 1999 「香川県出土の皇朝十二銭」『研究紀要Ⅶ』財団法人香川県埋蔵文化財センター
- 小林義孝 2004 「古代の火葬と火葬墓」『古墳から奈良時代墳墓へ』大阪府立近つ飛鳥博物館  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 1986 『朝倉南甲遺跡』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 1994 「尾土居窯跡」  
『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ—西条市編—』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2001 『松ノ元遺跡』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2004 『平成14年度年報 愛比売』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2005 『平成15年度年報 愛比売』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2007 『平成17年度年報 愛比売』  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2008 『朝倉下 経田遺跡』現地説明会資料
- 佐藤竜馬 1993 「讃岐における古代の火葬墓」『研究紀要Ⅰ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター 2006 「合蔵廃寺跡遺跡」  
『指定史跡等保存活用事業埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』
- 乗岡実 2002 「備讃瀬戸の祭祀遺跡と海上交通」  
『瀬戸内海における古代海上交通と祭祀』古瀬清秀編 福武学術振興財団
- 正問睦夫 1991 「愛媛県越智郡朝倉村出土の和同開珎」『遺跡』第33号
- 正岡陸夫 1993 「愛媛県今治市国分出土の和同開珎」『遺跡』第34号
- 正岡睦夫 1995 「伝愛媛県小松町出土の統一新羅系土器」『古文化談叢』第35集 九州古文化研究所
- 正岡睦夫 1996 「愛媛県朝倉村ふるさと美術古墳館保管の和同開珎」『遺跡』第35号
- 正岡睦夫・十亀幸雄 1996 「愛媛県周桑郡小松町柏木古墓出土の和同開珎」『遺跡』第35号
- 山内英樹 2000 「南海道」「阿波国」「讃岐国」「伊予国」「土佐国」  
『畿内・七道からみた古代銭貨』出土銭貨研究会



1. かいとく鼻遺跡
2. 馬石・せにがみ石遺跡
3. ガンド遺跡
4. 北浦遺跡
5. トピノス遺跡
6. ガンド浜遺跡
7. 花見山遺跡(ホウロク石地区)
8. 王子神社東遺跡
9. 宮崎古墳
10. 宮崎鼻遺跡
11. 大浦遺跡
12. ヤケヤマ遺跡
13. 大浦浜遺跡
14. 大浦浜遺跡たては北麓地区
15. たては1号墳
16. たては2号墳
17. たては3号墳
18. 長崎鼻遺跡
19. 長崎古墳
20. 須恵器出土地点
21. 歩渡島1号墳
22. 歩渡島2号墳
23. 歩渡島3号墳
24. 歩渡島4号墳
25. 歩渡島遺跡
26. すくも塚
27. 西浦遺跡

図1 大浦浜遺跡の位置 (報告書より、一部改変)

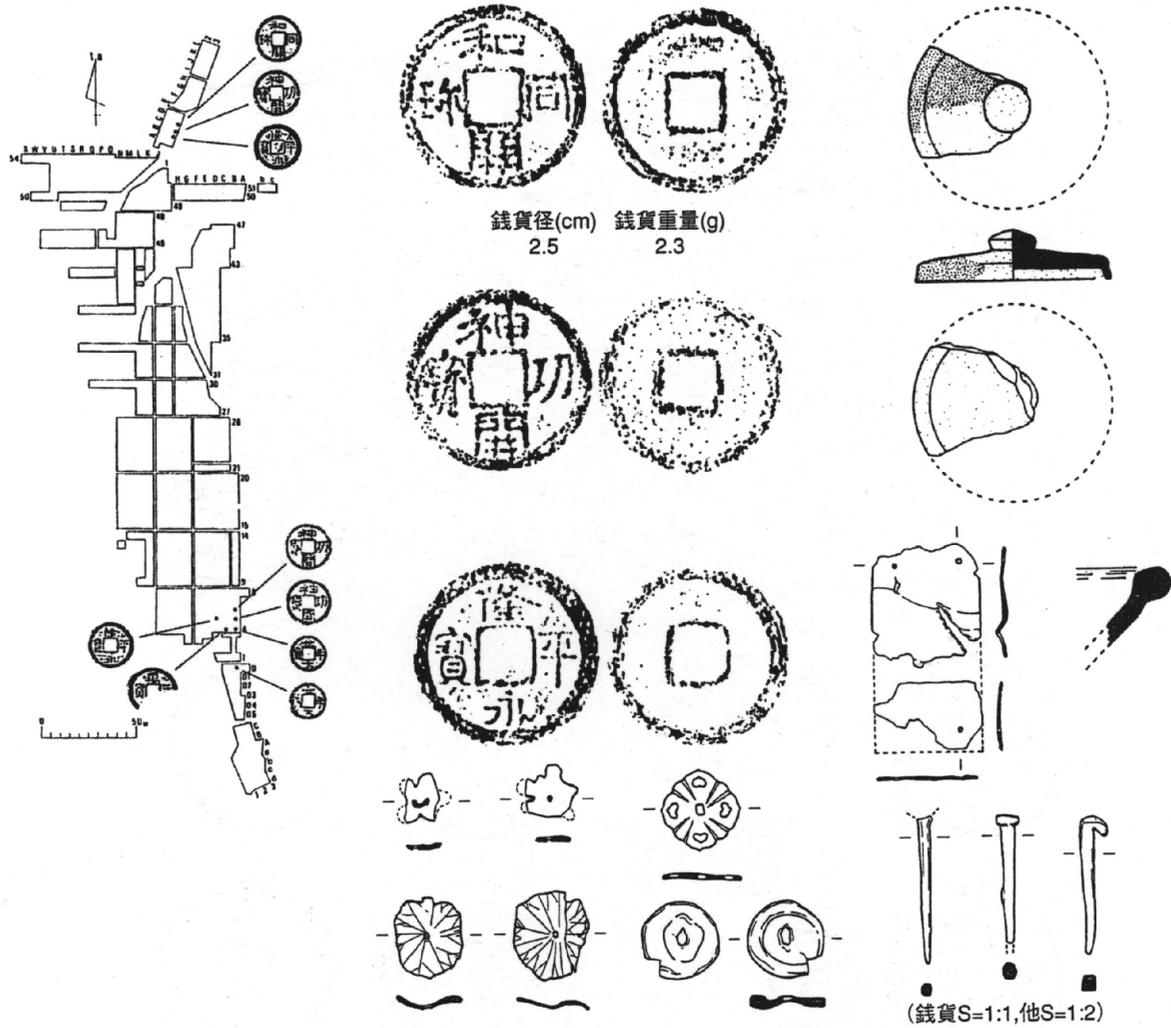


図2 大浦浜遺跡出土遺物と分布 (報告書より)

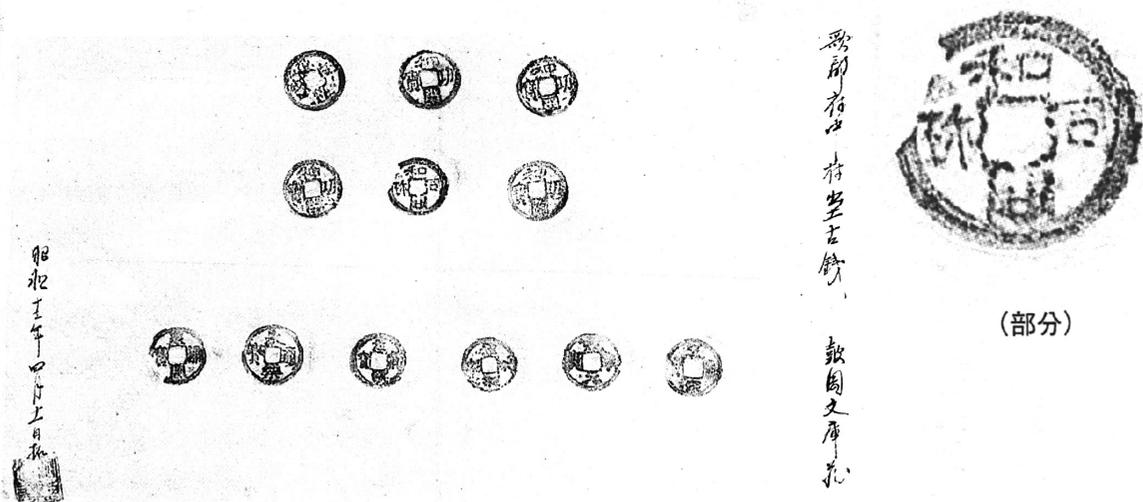


図3 西福寺遺跡出土錢貨

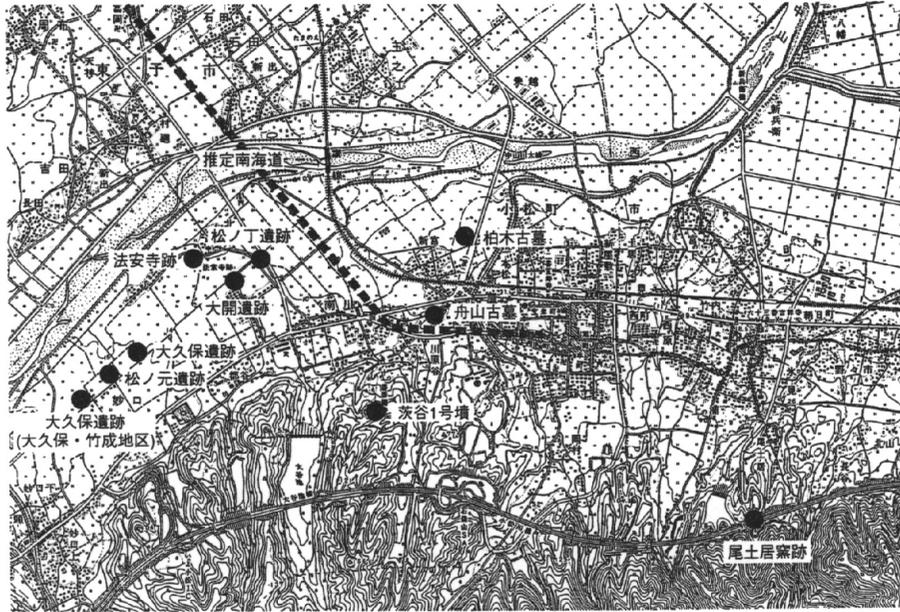


図4 柏木古墳と周辺の遺跡

(S=1:50,000)

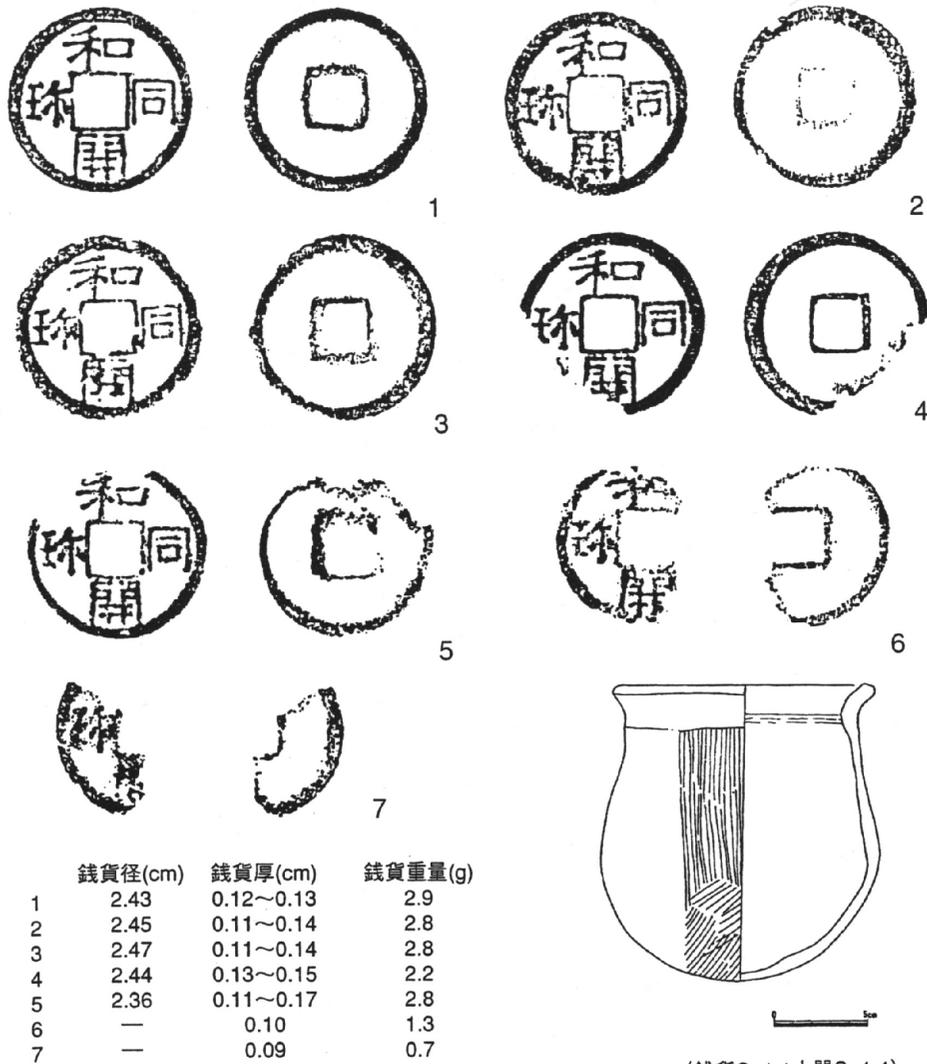
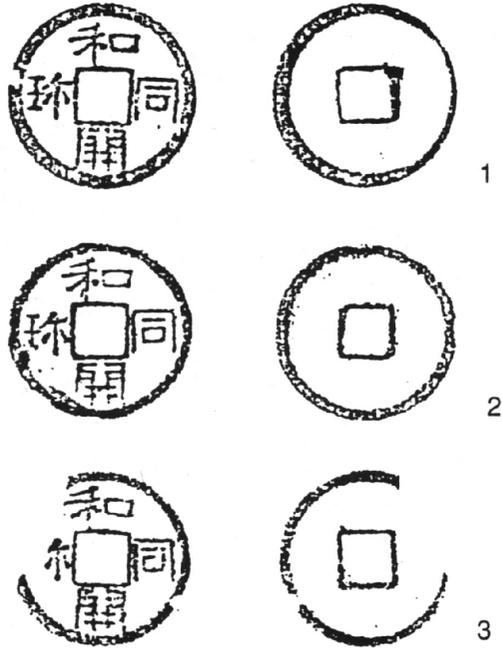
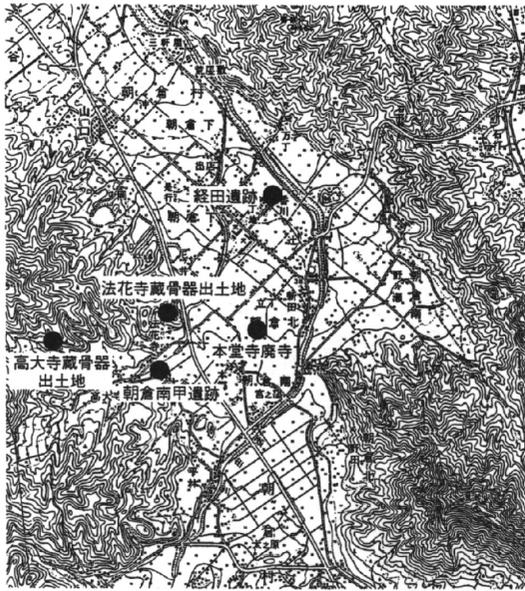
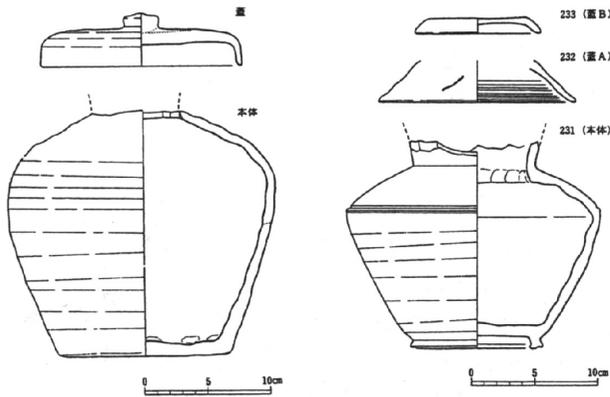


図5 柏木古墳出土の蔵骨器と銭貨



(S=1:1)

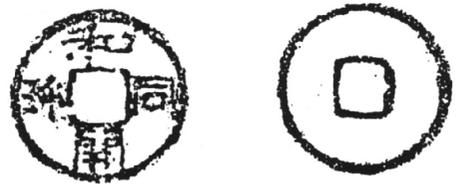


法花寺蔵骨器 朝倉南甲遺跡出土蔵骨器  
((財)愛媛県埋蔵文化財調査センター1986より)

	銭貨径(cm)	銭貨厚(cm)	銭貨重量(g)
1	2.45	0.10	2.5
2	2.45	0.10	2.5
3	2.40	0.7	2.1

(正岡1991より)

図6 朝倉高大寺出土銭と周辺の遺跡



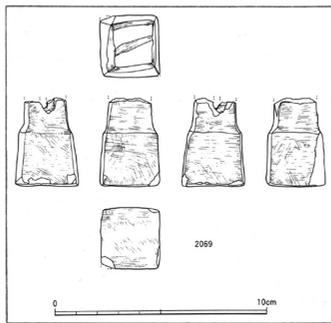
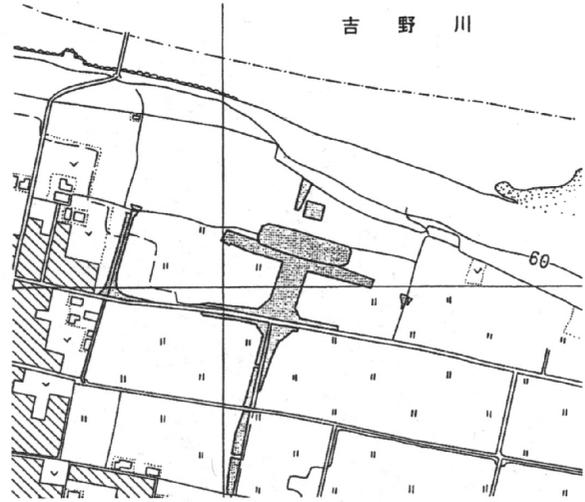
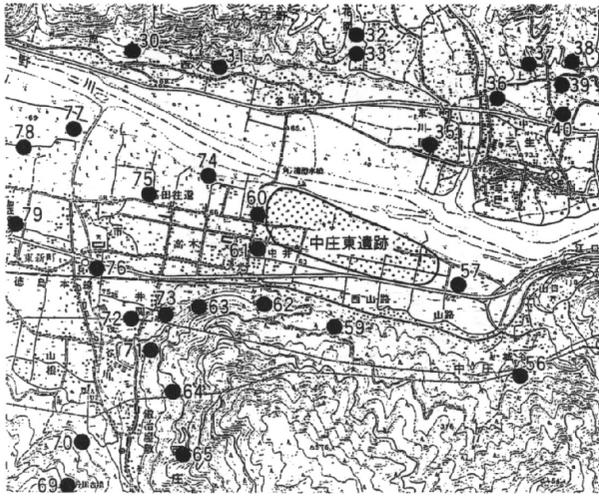
(S=1:1)

銭貨径(cm)  
2.38~2.40

銭貨重量(g)  
2.5

(正岡1993より)

図7 今治国分出土銭貨と周辺の遺跡



SA2017出土石製印未成品

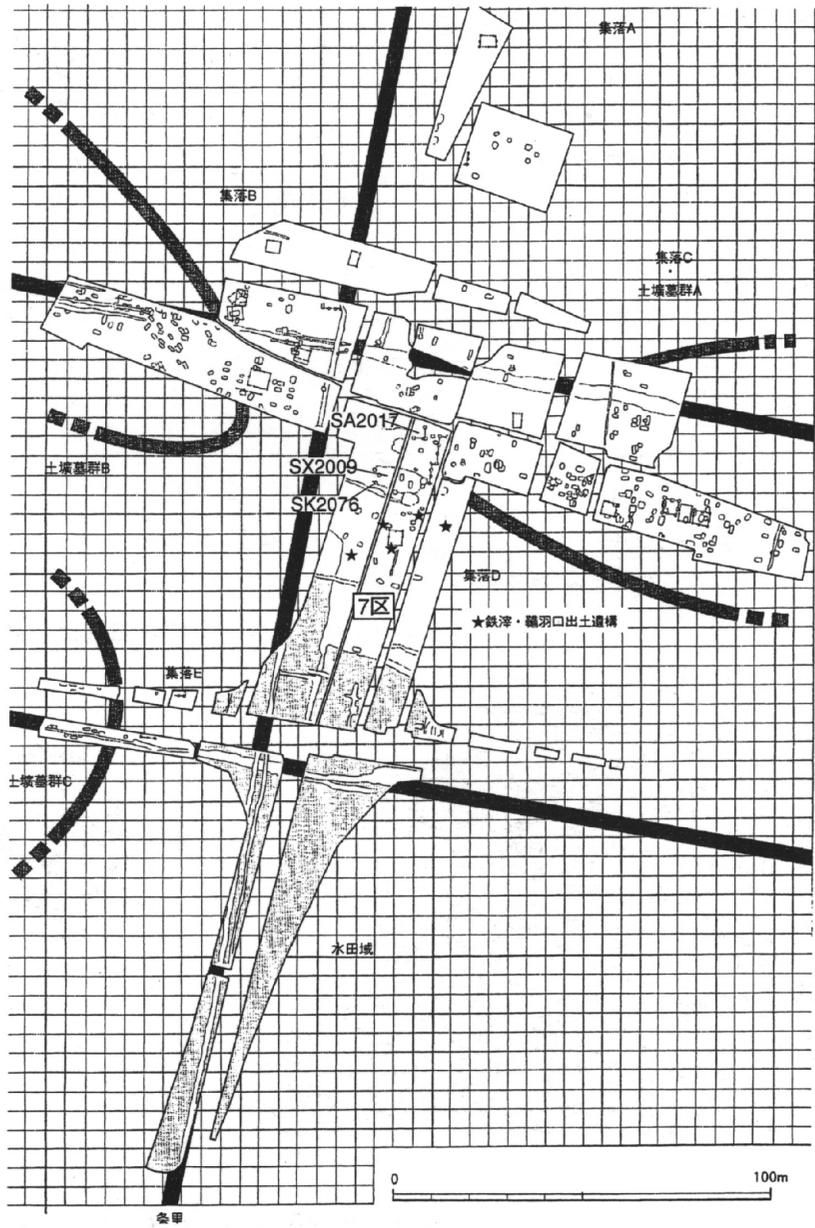
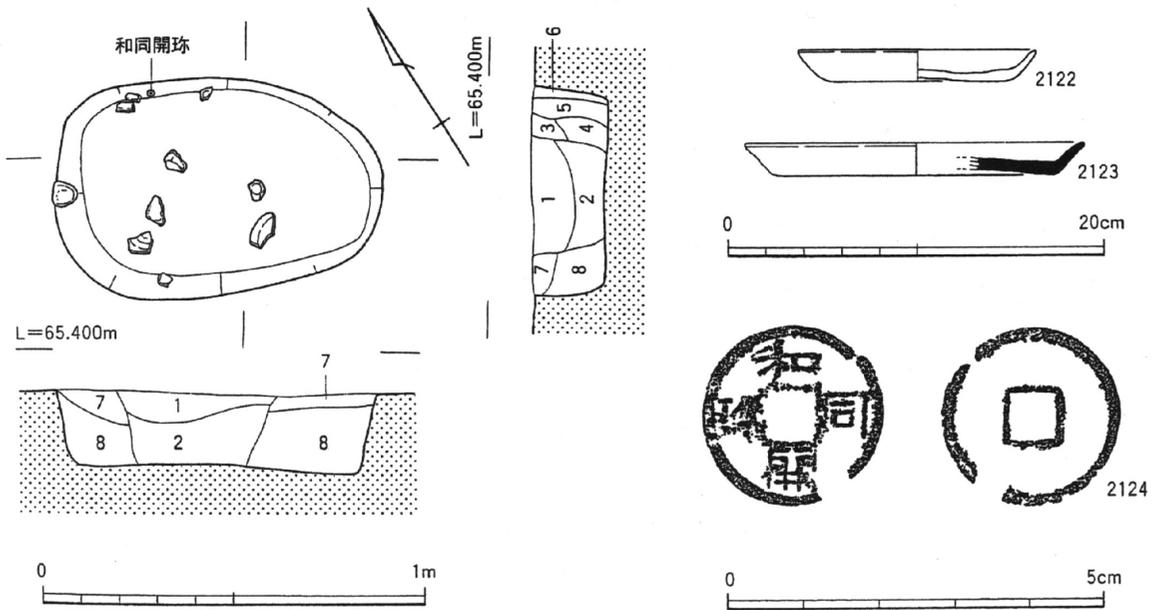


図8 中庄東遺跡の位置と概要（報告書より、一部改変）

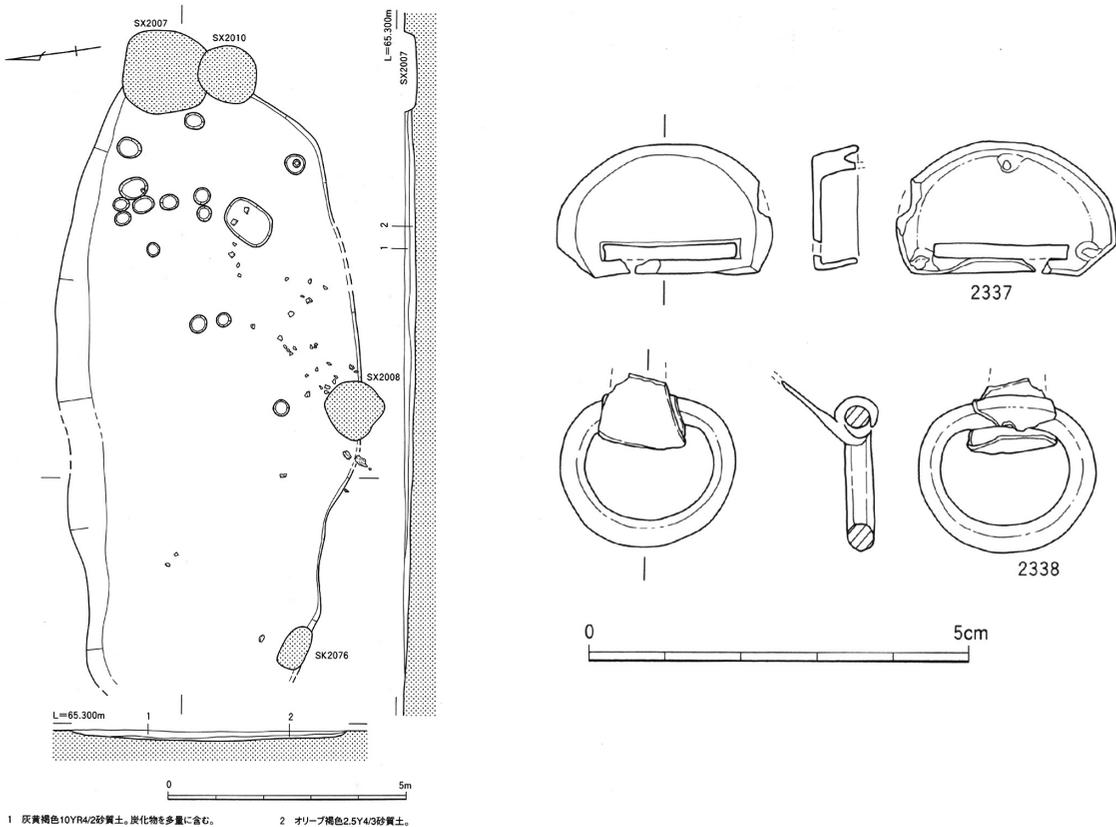


- 1 暗黄褐色10YR4/2砂質土。炭化物を極少量含む。
- 2 暗黄褐色10YR4/2砂質土。
- 3 暗黄褐色10YR4/2砂質土。炭化物を極少量含む。
- 4 にぶい黄褐色10YR4/3砂質土。

- 5 にぶい黄褐色10YR4/3砂質土。
- 6 にぶい黄褐色10YR4/3砂質土。
- 7 褐色10YR4/4砂質土。炭化物を極少量含む。
- 8 にぶい黄褐色10YR4/3砂質土。

銭貨径(cm) 銭貨重量(g)  
2.35 1.30

図9 中庄東遺跡7C地区SK2076 遺構と遺物（報告書より）



- 1 灰黄褐色10YR4/2砂質土。炭化物を多量に含む。
- 2 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土。

図10 中庄東遺跡7B・C地区SX2009 遺構と遺物（報告書より）